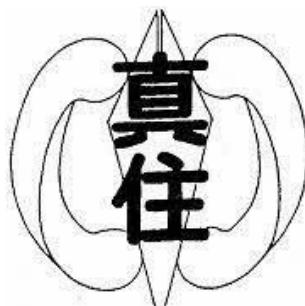


令和 7 年度  
「運営に関する計画」



大阪市立真住中学校  
令和 7 年 4 月 18 日

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校における長年の課題であった学校内外での生徒の問題行動も比較的安定しつつあり、生徒たちの規範意識や生活習慣も徐々に確立されつつある。保護者をはじめ、地域・関係諸機関からの教育活動への参画と、教職員の日々の教育実践の成果である。

しかしながら、依然として各種学力調査においては正答率や平均点が全国平均、大阪府・大阪市平均を下回っている状況が続いている。落ち着いて授業を受けるなど「学習へ向かう姿勢」は確立しつつあるものの「学力の定着」という点においての課題は解消していない。

学力調査における無回答率の高さを解消するために目の前の課題に対して、あきらめることなく、最後まで粘り強く取り組む姿勢を醸成していくことを目標に掲げ、日々の教育実践を展開していくことが今後に向けた課題である。

また、「安全・安心な教育の推進」の実現に向けての課題として、学校アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と答える生徒の割合が 89% であり、不登校生徒の割合も 13.3% に達する現状がある。

学力面において全国平均、対府・市平均を下回っているものの、体力調査においては学年、男女別によっては一部で平均を上回っている。そして、地域の防災活動に貢献するなど、自分たちの長所を人のために役立てる活動を通して、自己肯定感を感じさせることができるように日々の教育実践を行う。

豊かな感性を育むとともに、生徒一人ひとりが安心して穏やかな気持ちで、学校生活を過ごすことのできる集団づくりに取り組む。関係機関とのより密接な連携のもとに不登校や虐待事案、ヤングケアラーに関わる問題はもとより、生起するさまざまな教育課題にも組織的な取組みを進める。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、75%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- ・令和7年度の校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、96%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、68%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を93%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の中学校チャレンジテストの府平均正答率(平均点)7割以下の生徒を、いずれの学年も令和3年度より5ポイント減少させる。(令和3年度:1年34%,2年28%,3年38%)
- ・令和7年度の校内調査の「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、40%以上にする。
- ・令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、40%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査の「T.T.や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を57%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。
- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査、全国学力・学習状況調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を、令和3年度より5ポイント減少させる。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、80%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

1. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 88.8%以上にする。(R6 88.7%)
2. 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 13.3%)
3. 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 64.2%)

前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消され、不登校状態であっても、出席日数の増(校内外でのICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定を含む)など、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。
4. 年度末の校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、97%以上にする。(R6 96.6%)
5. 年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、79%以上にする。(R6 78%)
6. 年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、73%以上にする。(R6 72%)
7. 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、94%以上にする。(R6 93%)
8. 年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。(R6 69%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

1. 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。(R6 42%)
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。  
(令和 6 年度 : 2 年国語 0.91 数学 0.86、1 年国 0.93 数 0.96)
3. 令和 7 年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点) 7 割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。  
(令和 6 年度 : 1 年 26% 2 年 36%)
4. 年度末の校内調査の「T.T. や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。(令和 6 年度:91%)
5. 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 51%以上にする。(R5 50.7%)
6. 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 58%以上にする。(R6 57%)

### **【学びを支える教育環境の充実】**

1. ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は、4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、2 日以上設定する。
2. 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く]
3. 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を満たす教員の割合を前年度以上にする。【令和 6 年度 33.3% (76.7%)】
4. 学校閉庁日については、夏季休業期間中は 2 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。(R6 春 0 夏 3 冬 3)
5. 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より 1 ポイント増加させる。  
(R6 79%)
6. 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80% 以上にする。(R6 79%)
7. 令和 7 年度の校内調査、全国学力・学習状況調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を、前年度より 3 ポイント減少させる。(令和 6 年度:校内 52.0%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立真住中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b>	
1. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 88.8%以上にする。(R 6 88.7%) 取組①	
2. 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R 6 13.3%) 取組②③	
3. 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R 6 64.2%) 取組②③  前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消され、不登校状態であっても、出席日数の増(校内外での ICT 等を活用した学習活動をすることによる出席認定を含む)など、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。	
4. 年度末の校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、97%以上にする。(R 6 96.6%) 取組④	
5. 年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、79%以上にする。(R 6 78%) 取組⑤～⑧	
6. 年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、73%以上にする。(R 6 72%) 取組⑤	
7. 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、94%以上にする。(R 6 93%) 取組⑥	
8. 年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。(R 6 69%) 取組⑦	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】  「大阪市いじめ対策基本方針」の一層の徹底を図り、いじめ等の早期発見・解決、未然防止に努める。	
指標 全学年で学期に 1 回以上いじめアンケートを実施し、未解決事案 0 件にする。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】  不登校生徒の状況把握のために定期的に情報交換を行う。	
指標 月に 1 回、不登校に関する校内全体での会議を行い、情報を共有する。またケースに応じて、関係諸機関と連携し対応する。	
取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】  遅刻生徒数を把握するために定期的に集計を行う。	

指標 月に1回、遅刻生徒数を集計し、学年集会等で報告する。	
取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 各学年において4月当初にオリエンテーションを行い、学校の決まりを周知するとともに風紀チェックを行い、生徒の規範意識を醸成させる。	
指標 各学年オリエンテーション、風紀チェックをそれぞれ1回以上実施し、生徒の規範意識を醸成させる。	
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 行事毎で生徒同士の「いいとこみつけ」を実施し、自分の良いところに気付かせる取組を行う。	
指標 上記の取組を各学年、年間2回以上行い、懇談等で結果を伝える。	
取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 地域との防災訓練を通して、ジュニアリーダーとしての役割を自覚させる。	
指標 防災訓練後のアンケートにおいてジュニアリーダーとしての役割を意識したと肯定的に答える3年生の割合を51%以上とする。	
取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】 各学年でキャリア学習に取り組む。	
指標 キャリア教育に各学年年間1回以上取り組む。	
取組内容⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳教育を推進し、人としての生き方についての自覚を深めさせる。	
指標 校外での各種道徳教育研修（文科省支援事業研究校・拠点校公開授業および研究協議、全市研究発表会、「道徳土曜学習会」、大阪市道徳教育推進委員会）に2回以上参加する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

## (様式 2)

## 大阪市立真住中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>	
<p>1. 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。(R6 42%)</p> <p>2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。</p> <p>(令和 6 年度 : 2 年国語 0.91 数学 0.86、1 年国 0.93 数 0.96)</p> <p>3. 令和 7 年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点) 7 割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。</p> <p>(令和 6 年度 : 1 年 26% 2 年 36%)</p> <p>4. 年度末の校内調査の「T.T. や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。(令和 6 年度:91%)</p> <p>5. 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 51%以上にする。(R6 50.7%) 取組①⑦</p> <p>6. 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 58% 以上にする。(R6 57%) 取組⑤⑥</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】</b> 放課後に図書室など、自習ができる場所を開放し、学習習慣が定着していない生徒に対して、自主的な学習の場を提供する。	
<b>指標</b> 2 学期期末テストの 5 教科の平均点を 1 学期期末テスト以上にする。	
<b>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】</b> 国語、数学、理科、において、TT や習熟度別少人数授業を行い、授業できめ細やかな指導を行う。	
<b>指標</b> 令和 7 年度の校内調査の「国語、数学、理科の TT や習熟度別少人数の授業では、通常の授業と比べ、わからないところを教えてもらったり、自分のペースに合わせた学習を行ったりすることができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。	

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 各授業において、生徒どうしが話し合う活動を単元ごとに取り入れる。	
指標 令和7年度の校内調査の「単元ごとに生徒同士が話し合う活動を取り入れている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 読解力の向上のために、2・3年生において漢字検定を受検する。	
指標 漢字検定を受検するための漢字学習を通して、漢字への興味関心が高まったと答える生徒の割合を65%以上にする。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 本校生徒が比較的得意である球技種目を多めに取り入れることにより、運動やスポーツに対する意識を前向きにする。	
指標 球技種目を年間2つ以上行う。	
取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 各運動種目において、グループ活動を取り入れる。生徒同士の対話を重視し、お互いに教えあい、評価しあうことができる授業を展開する。	
指標 各運動種目1時間以上のグループ活動を行う。	
取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 4技能を向上させるためにパフォーマンステストを行う。	
指標 学期に1回以上パフォーマンステストを行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式 2)

## 大阪市立真住中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>1. 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] 取組①</p> <p>2. 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を満たす教員の割合を前年度以上にする。 【令和 6 年度 33.3% (76.7%)】取組④⑤</p> <p>3. 学校閉序日については、夏季休業期間中は 2 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。(R 6 春 0 夏 3 冬 3) 取組④⑤</p> <p>4. 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より 1 ポイント増加させる。(R 6 79%) 取組③</p> <p>5. 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80% 以上にする。(R6 79%) 取組⑥</p> <p>6. 令和 7 年度の校内調査、全国学力・学習状況調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を、前年度より 3 ポイント減少させる。(令和 6 年度: 校内 52.0%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6 教育 D X(デジタルトランスフォーメーション)】</p> <p>学習者用端末を利用して、生徒の学習状況・気持ちの変化を把握する。</p> <p>指標 心の天気を原則毎日行う。デジタルドリルを朝学習として週 3 回活用する。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>読書に親しむ時間を設ける。</p> <p>指標 元気アップと連携し、月に 2 回、土曜日に図書室を開放する。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>学校の様子を定期的に家庭や地域に発信する。</p> <p>指標 H P の更新を 1 日に 1 回以上する。</p>	
<p>取組内容④ 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「ゆとりの日」をホワイトボードや月中行事などに記載することで見える化を図る。</p> <p>指標 年間で年次休暇の取得が 10 日以上の教職員の割合を 51% 以上にする。</p>	

<p><b>取組内容⑤【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b>          閉庁日を設定し、実行する。各自が毎月1回以上、時間外勤務時間の確認を行う。</p>	
<p><b>指標</b> 令和7年度末の教職員アンケートの「働き方改革の取組みにより、勤務時間縮減に対する意識が高まりましたか」の項目において、肯定的な回答を71%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b>          総合的読解力育成カリキュラムに関する校内研修を実施する。</p>	
<p><b>指標</b> 全教員が参加して行う校内研修会を年間2回実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点